第8回食物アレルギー教室開催

九月二十七日(日)にあいぱーく光で食物アレルギー教室が開催されました。初めての地方開催でしたが、県内外から約二百五十人の方がいらっしゃいました。その様子が二十九日(火)の日刊新月南で紹介されました。

エビペンの使い方を説明る柴田さん(左)

●食物アレルギー克服、理解へ250人

●親の会が初めて地方で教室

光

全国組織の食物アレルギーを持つ親の会(武内澄子代表)主催の第八回食物アレルギー教室が二十七日、光市のあいぱーく光で開かれ、県内外の約二百五十人が講演を聞いたり食物アレルギーに対応した料理の実習に参加して熱心に学んだ。

講演する山手院長

同教室はこれまで首都圏や関西で開かれてきたが、浅江のやまて小児科・アレルギー科医院(山手智夫院長)に同会から申し入れがあり、地方都市では初めての開催になった。

第一部は講演で、まず福岡病院小児科の柴田留美子医師が「食物アレルギー　成長とともに考える対策～負荷試験とエピペン」と題して話したあと、山手院長が「アレルギーっ子を育てた体験から」、武内代表が「食物アレルギー対応ツアーの取り組み」を紹介した。

柴田さんは食物アレルギーの概要やアドレナリン入りの自己注射器「エピペン」の使い方を説明し、アレルギーの発症時にエピペンの注射で症状の改善が期待できること、学校でも教師全員が使用法を習得することが求められると説いた。

山手さんは子どもが食物アレルギーを発症したが、たまたま米国に転勤したことで実質的な"転地療法"になって発症がなくなった体験を話した。

武内代表は「皆さんがアレルギーと戦っている今の道は必ず出口に向かっている。お子さんをよく見て、成長を楽しみながらアレルギーを克服していきましょう」と呼びかけた。

調理実習は日本ハムが出資し食物アレルギー患者の支援活動をしているニッポンハム食の未来財団の協力で開かれ、応募多数のため抽選で選ばれた二十五人が卵、乳、小麦粉、そば、落花生などを使わない秋満載の弁当などを作った。

瀬戸内タイムス　三十日(水)記事

アレルギー教室に二百八人参加

すべて除去せず、食べられる量を

やまて小児科・山手智夫院長の体験談も

エビペンの使い方を説明する柴田さん

食物アレルギーの子を持つ親の会(本部・東京)主催のアレルギー教室が二十七日、あいぱーく光で開かれ、二百八人が参加した。

浅江一丁目のやまて小児科・アレルギー科(山手智夫院長)が昨年開いた『アレルギーっ子の会』百回記念講演会で、食物アレルギーの子を持つ親の会代表の武内澄子さんが講演したことがきっかけで、初めて光市で開催。第一部の講演会は、アレルギー専門医で国立病院機構福岡病院小児科医の柴田瑠美子さんが『食物アレルギー成長とともに考える対策～負荷試験とエピペン～』と題して話した。

アレルギーの中でも食物アレルギーの患者が増えており、アレルゲンを含む食品の増加に加え、環境や花粉などと交差しながら反応するなど、アレルギーが複雑化していることを指摘した。

アトピー性皮膚炎は治療薬があるが、食物アレルギーは治療薬がなく、基本は自然治癒。年齢によってアレルゲンとなる食物の順位が変わり、子供のころは①卵②乳製品③小麦の順だが、大人になると①小麦②甲殻類。「すべて除去するのは家族にとってもストレスになります。食べられる物は食べた方が良く、症状を起こさずに食べられる量を知っておくことが大切です」などと述べた。

体験を話す山手院長

また、注意したい食品がピーナッツとナッツ類。米国では約三百万人がピーナッツ・ナッツアレルギーで、小児でアナフィラキシー(短時間に全身にあらわれる激しい急性アレルギー反応)が増加しており、アナフィラキシーショック死亡例の八割の原因食品に"ハウスダストの中にピーナッツアレルゲンが入っていることもあるので、日ごろから清潔にして、スキンケアも大切です」と述べた。

また、アナフィラキシーの症状を一時的に緩和する補助治療剤『エピペン』の使い方講習も。練習用のエピペンが参加者に配られ、柴田さんが太ももの外側に正しく注射する方法を説明した。

柴田さんの講演後、山手院長も『アレルギーっ子を育てた体験から』と題して話した。

三男が食物アレルギーだったことから、食物アレルギーの子を持つ親の会に入会。「仲間と知り合えたことで、一人ではない心強さ、正しい情報を得ることの大切さが分かりました」「アレルギーっ子を育てたことで、食品や環境に目を向けるようになり、家族の体調も良くなりました。アレルギーっ子は大切なことを教えてくれます」「人と比較することはありません。その子のペースに合わせて、ゆっくり、少しずつ食べられる物を増やしていけば良いと思います」と、アレルギーっ子を持つ親たちへエールを送った。

第二部の料理教室は、定員をオーバーする三十七人の応募があり、抽選で選ばれた二十五人と子供六人が参加。ヘルスケアプロジェクト(広島市)の鉄穴森陽子代表の指導で、アレルゲン食品を除いたお弁当と給食作りに取り組んだ。(通)